

まず！やってみる！新聞

守屋もとのり後援会

2025年6月15日発行
NO. 5 (部内討議資料)

090-5374-1333(守屋)

笠岡の教育について考える！

後援会ホームページ



各種行事の情報は！
「よし今だ新聞」



3月に笠岡市内の県立高校の再編のプランが公表されました。その内容を見てびっくりされた方も多かったのではないかと思います。

再編は工業だけが対象ではなかったのか？ええ、笠岡市内の3校を一つにするの？といった声が聞こえてきました。2か月ぐらいこれまでつながりのあった仲間や教育関係者の方々にお話を聞かせていただき、高校再編って「まちづくり」「人づくり」だなと改めて感じました。

今、笠岡市では学校の規模適正化の作業が進んでいます。私は中学校の統廃合については数の論理でなく地域的な配置やまちづくりの視点で考える必要があると考えます。

そこで、小中高一貫の「人づくり」を考える中で高校の魅力化につなげることを提案します。



高校魅力化！って何？

私が10年前に観光課にいたころに、井笠広域観光協会で「いかさ田舎カレッジ」という若者のチャレンジ塾をしていました。2016年ごろです。そのころから、井原・矢掛には学校の先生のキーマンが地域と学校をつなぐ仕事をされていたなと今更ながら思い出します。どちらも小中高という切れ目ない取り組みをされていた。「矢掛学」の取り組みは、全国的にモデルにされています。

高校の魅力化が目的ではなく、地域の子供たちの学びの場と地域のサポートがあって、地域に根差し、地域から当てにされる「人づくり」をすることにより、結果的に高校の魅力化につながっている。

6月議会の
質問は裏面
に掲載！

広島県大崎海星高校

今では、7000人の島に1000人の高校生。10年前は、島から高校がなくなるといって危機感の中で学校、地域、行政が立ち上がりV字回復。今では全国から生徒が集まる高校に。

コーディネーターの取釜氏に視察をお願いし、じっくり現状を見せていただいた。行政・学校・議会・公営塾・教育寮・高校生と関係する人との接点を作っていた肌で取り組みを感じた。

その中で、島から高校がなくなるといって危機感の中で、大人たちの本気の取り組みが奇跡を起こした。そして、地域も学校も子供たちにも無くてはならない「高校」を作り上げた。「自分ごと」がキーワード。

岡山県立矢掛高校

今県の学校教育監をされている室先生が「矢掛学」の基を作ったと認識している。さかのぼるところ、矢掛商業と矢掛高校の統廃合から新しい高校づくり、求められる高校生像というものを探求されていたように当時お話を伺ったことがある。

「矢掛学」の取り組みは、徹底してのインターンシップ。1年間毎週金曜日2時限は地域の事業所等に入る。受け入れる方も大変だが、それだけ生徒が関わると、生徒に任せる仕事ができるという。年1回4日程の職場体験では、生徒のする片手間仕事を用意している状態に過ぎない。やることは必要だが、「生徒に任せるのが出来た」ところが需要だと思った。

岡山県井原市

5月の中旬に井原市の教育委員会の藤井先生にお話を伺った。井原市は「人づくり」を施策の中心に位置づけて、市長部局と教育委員会が1本化されている。市長はじめ市の部長級のチーム推進本部があり、市内のまちづくり協議会・公民館・小中高の学校関係・各種団体からなるひとづくり実行委員会があり、アドバイザーとして大学教授をはじめ10名のシンクタンクがある。これにかかる予算年間1200万程度。

敢えて柱をお示しすると①ひとづくりのまち井原の発信②社会に開かれた教育課程の実現③地域社会・企業との連携④高校・大学との連携⑤家庭教育の支援⑥読書活動の推進。10年の積み重ねの成果を痛感。

これから笠岡の目指す方向性は？

高校再編・小中学校統廃合を地域のまちづくりの課題とリンクさせて取り組む事が必要ではないか。

→今後求められる人づくりと教育
→その教育のフィールドが地域である

ある先生の話

・これまでの教育は担当科目の先生が持っている知識を教える。

→教員がこれまでに受けたことのない授業、やったことがないことを提供して生徒が地域で実践しながら学ぶことが出来る学校こそが必要。

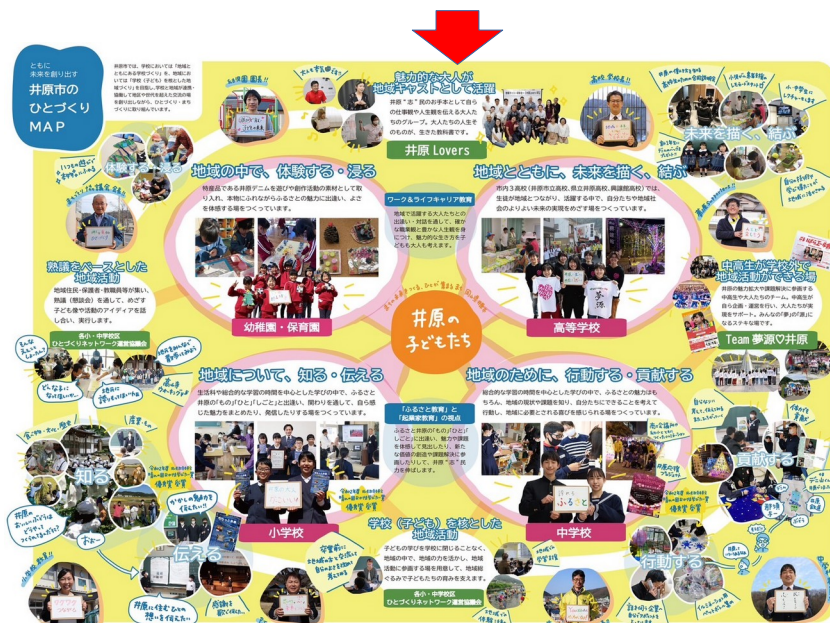
ここに地域と学校の「winwin」の接点があり、それをサポートするのが行政



大崎海星高校の視察の様子



6月1日笠岡の教育を考える集い



何をやっているかよりも「顔が見える」関係性

6月議会一般質問 6月10日（火）

6月5日開会で令和7年第2回笠岡市議会定例会が開会され、6月補正予算等が上程されました。6月6日から代表質問・個人質問が行われ、私は10日の2人目の質問者として登壇しました。

今回で5回目となります。6月の一般質問は下記のとおりです。「まちづくり」は「人づくり」という観点から、「学校」「地域」「行政」の「人づくり」について質問をさせていただきました。

1. 学校現場の人づくりについて

高校再編を県の仕事だと考えずに、笠岡市の子供たちの学びの場、小中高一貫した人づくりを考えないと高校も今後存続の危機となる。

→高校は県の管轄だから小中高の一貫教育は考えていない。

高校再編のプロジェクトチームに教育長・企画政策部長が参加。

【想い】

笠岡の事が分からない人たちに笠岡の高校の再編を任せるのか？これまでの行政の関りで再編を免れたところもある。（高梁市）財政難だから何も出来ないのではなく、市長部局に担当部署と担当者を名前だけでも設ける事、これぐらいはしてほしい。実際に地域の現状を知った担当者が日常的に事を進める事が必要、それと頑張っている市内3校の高校に伴奏して欲しいと思う。

2. 地域の人づくりについて

地域のまちづくり協議会の取組と高校の再編、小中学校の統廃合は大きく関連してくるが、そこをうまく地域連携とリンクさせて、「しょうがない」から「何とかしよう」に変換させるための指導力を。

→まず、地域の現状を丁寧にお聞きしながら検討していく。

小規模多機能自治を進めるロードマップは持っていない。

【想い】

機能していないまちづくり協議会も見られる中、財政健全化対象と思いきや、令和7年度検討と先送りされていた。しかし、未だに手が付けられていない。問題となりそうな事務局経費等を集落支援員制度を適用し特別交付税措置とし、コスト削減をしたと言いたいのか？小規模多機能自治の推進について尋ねると、地域差があるので地域の意見を十分聞いてを繰り返すのみ。「対話」と「連携」を「地域の意見を聞いて」と繰り返すことと勘違いしているのか？と思うぐらい。

小中学校の統廃合をまちづくりの観点から考えると地域の活力が向上することは絶対ない！教育的効果？だけでなくまちづくりの視点から統廃合にならないように地域をサポートする事も行政の大きな仕事ではないか。それに気づかれないようにそっとしているのかと思わざるを得ない。

3. 行政職員の人づくりについて

行政課題も山積する中で、担当を明確にし、重要課題についてはスペシャリストを要請し、対応する必要がある。

→スペシャリストの育成よりそのマイナス面（物申す職員）を危惧している発言あり。

【想い】

担当者を明確にし、腰を据えて取り組んでもらうことが必要な部署があります。都市計画課と農政水産課。都市計画課については今は予算凍結されていますが、笠岡駅の橋上化、10年ぐらいのスパンで取り組む課題。それと、農政水産課。市長の最重要施策である臭気対策についてロードマップがやっと出来てこれからという時に、担当部長・課長がそろって異動、担当課長についてはこのところ3年ほど毎年替わっている状態をどう考えるのか？理解に苦しむ。

4. 「まちづくり」は「人づくり」について

「人づくり」は「まちづくり」の視点から、笠岡市の施策の柱として位置づけて、しっかり全体で取り組む必要がある。

→地域との連携はこれまで以上に進めていく必要あり。

【想い】

今回の答弁はすべて教育長まかせといった印象でした。この項目で伝えたかったことは、高校再編・小中学校の再編は教育委員会だけの仕事ではないということ。市長部局が笠岡市全体のまちづくりの視点で「人づくり」を中心にして考えないといけないという事です。

教育長は答弁の中で再三地域との連携はこれまで以上に必要で進めていくとのことですが、働き改革や課題が多様化する中で誰がその役割を果たすのか？各学校で実施出来る方向性（計画）及びマンパワーの確保なくして出来ないと思うのは私だけでしょうか。

今後について

今回の質問の中で、学校・地域・行政のそれぞれの課題は提示しましたが、実際に他の地域の取組の現状や目的に理解がないと「自分ごと」として考えることは出来ません。

6月1日に有志で「笠岡の教育を考える集い」を開催したように、先進的にやっていらっしゃる方々に来ていただき、それぞれの立場の方を巻き込みながら、機運を高める必要性を感じて実践します。

シリーズ「まちづくり考」⑥

「お金が無ければ、知恵を出せ！」

今、笠岡市は財政健全化キャンペーン中というぐらいのマイナスイメージを内外から感じられ、なかなか明るい話題がありません。

こんな時によく言われるのが、「お金が無ければ、知恵を出せ！知恵が無ければ、汗を出せ！」。最近のこれに付け加えて「汗も出なければ、辞表出せ！」という言葉です。今の時代こんなことを平然と言っていたら「パワハラ上司」と言われるに違いありません。

しかし、このフレーズを聞いてうまいこと言うなと思いました。市の職員を見ていると本当に大変だと思います。自分が問題意識を持っても事業提案しても「お金がない」と言われ。働き方改革で自分の本当にしたいことも上の顔を見ながら自粛する。

こんな時は、市役所内だけに目を向けず、自分から地域に一歩足を踏み出してください。地域担当職員制度が笠岡市にはあり、各まちづくり協議会に3名程度の職員が当てられています。地域に出るためには少しスキルを持っていると出やすいと思います。それも、地域で持っていない、求められるスキルがあれば重宝されます。

各まちづくり協議会は何処も担い手やづくり、広報、企画に日々悩んでいます。そんな時に手伝ってあげようという職員がいたら渡りに船ですね。そして、自分で独自に仕事を作って、一緒に汗をかく経験は必要です。何か出来ないかと思う事よりも、一緒に活動をする中で人間関係を構築すること、地域を知ることから注力してください。その地域の人間関係や課題が分からないと次の手が出ないし、自分から課題と認識しない限り、継続的な取り組みにもなりません。

このことを、地域側から見ると、担当職員を地域の新たな担い手と思って、頼りにしているというオーラを地域側から出すことも必要かもしれません。人材も大きな地域資源です。周りを見渡してあるものを活かすことが「知恵」かもしれません。

話は戻りますが、「汗も出なければ、辞表出せ！」というのは夕日で町おこしをされた師匠「若松進一」さんの言葉です。私は、「辞表を出す気になれば何でも出来る！動くことで課題が見つかり、やるべきことも分かる！」と解釈しました。

（右の写真は6月8日に、若松進一氏のお宅にお話を伺いにお邪魔した際の写真です。



若松進一氏の「夕日をいかしたまちづくり」



若松さんの双海町は平成の合併で伊予市になっていますが、町の職員時代に始めた夕日コンサートは今年38回目、「道の駅ふたみ」も大勢の方でにぎわっていました。合併前に人づくりに注力され、最後教育長をされていました。

若松さんとのつながりは、約20年前に笠岡市の自治基本条例制定の時の記念講演で笠岡に来ていただきました。当時一番話をお聞きしたい人でしたので、わくわくドキドキでした。

【編集後記】

今回は6月議会が終わらない中で、一般質問に対してのこれまでのヒアリング、伝え切れなかったこと、温度差などを忘れないうちの書き残しておこうと思って後援会だよりを作りました。

毎回、一般質問の後には家族で笠岡放送の再放送を見ながら娘と妻からダメ出しをされます。今回も及第点には遠いようです。

これから梅雨に入ってくる。最近の雨の降り方は尋常ではありません。災害の少ない岡山ですがいつ災害ややってくるかもしれません。備えあれば憂いなし。日ごろからの準備、訓練が必要ですし、地域の顔の見える関係性づくりがもっとも必要だと思っています。

私の地区では多面的利用支払制度を活用して地域の農地保全を令和6年度から実施しています。去年は、餅つき大会を初めて開催し、今年はひまわりの植栽もやっという計画しています。また、地域の広報活動ということで新聞を作ろうかなと思っています。地域限定の新聞で地域の子供たちの情報を手作り新聞を通して知ることが出来ればいいなと思っています。今年の総会は4月半ばに実施しましたが、総会と言いながらお茶会みたいにコーヒーを飲みながら和気藹々と実施しました。何かに理由つけて集まり話をするのが「絆」づくりにつながっていると思っています。